



体験グローバル 「アサヒグループ食品株式会社」の講演

2018年5月1日7時間目に4年生を対象に、アサヒグループ食品株式会社より畠中和久さんを講師として本校にお招きし、講演をしていただきました。

講演では、「天野実業のイノベーションと事業展開に関する考察」と題して、天野実業（アマノフーズ）の事業展開を柱に、「経営とは/事業展開の背景」、「事業展開するにあたっての困難をどのように克服したか」、そして、「その技術・商品が社会にどのように貢献しているか」の3点からお話いただきました。天野実業がフリーズドライ技術の開発を推進した経緯や、B to Bから広く販売する自社商品開発への転換、その技術開発で直面した問題と技術を活用



した市場開拓を図るための特許戦略など、企業がもつ技術や経営戦略について具体的な事例をもとに説明していただきました。消費者のニーズを客観的に捉えるためのマーケティングや自社開発に必要な3つの「つくる」など、経営の関する内容も多く、刺激を受けるお話でした。

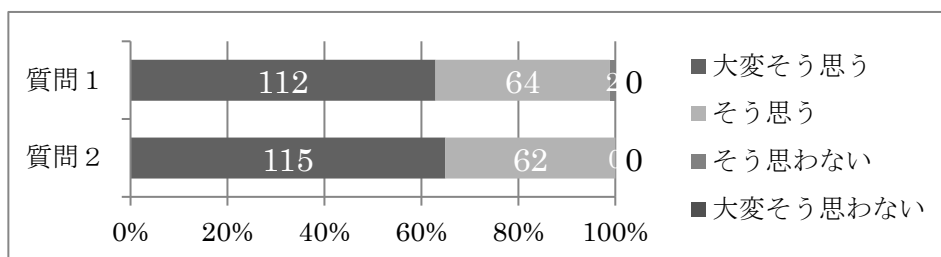
最後に、将来、高い道徳心と職業倫理観を持った社会のリーダーとして、自らの職業で社会貢献し、「利己と利他の調和」ができる人になってほしいとメッセージをいただきました。

講演後の生徒のアンケートをまとめると以下のようになりました。

質問項目

1. 今日の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。
2. 今日の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。

集計結果
*総数198



〔生徒の感想〕

○今日の講演では、経営の厳しさを学ぶことができました。経営は、縦糸と横糸を両立させていく難しさの中で、会社を高めていく一種の競争であることが分かりました。そんな状況の中にあるからこそ、成功の喜びが得られるのだと思いました。私も自分の中の縦糸と横糸を見つけ向上していきたいです。

○特許は自社の技術や信頼を守ってくれるものだと学んだ、商標や特許は会社の生命線であり、他社が模倣、追随しにくくするために必要だと学んだ。乾燥食品の業界を世間に広く知ってもらうために、他社製品をすべて排除するのではなく、他社と競争しようとする姿勢に感動した。

○私は今回の講演の中で、経営とは縦糸、横糸を判断することがとても印象に残っています。

自分の中で初心とかやりきろうと決めたことはブレてはいけないと思うけど、それを目指していく途中で失敗したらやり方を変えるなど工夫することが必要なので、縦糸、横糸のバランスをきちんと考えて目標を達成することが大事だとわかった。将来、自分が選んだ道で、自分や友だちが恥じることはないよう、心を磨いて「利己と利他の調和」が出来る人になりたい。



○附属の縦糸、横糸は何なのだろうかと考えた時、縦糸は1つ大きく「自由・自主」があり、横糸はそれの周りを取り囲む生徒だと思ふ。縦糸をブラさないために横糸がうまく動いていくことが必要なあとと思った。

○私は今回の講演の中で、経営とは縦糸、横糸を判断するということがとても印象に残っています。自分の中で初心とかやりきろうと決めたことはブレてはいけないと思うけど、それを目指していく途中で失敗したらやり方を変えるなど工夫することが必要なので、縦糸、横糸のバランスをきちんと考えて目標を達成することが大事だとわかった。将来、自分が選んだ道で、自分や友だちが恥じることはないよう、心を磨いて「利己と利他の調和」が出来る人になりたい。



○経営とは攻めと守りがとても重要で、他社を圧倒するぐらいに自社の特長を出していくことが大切と分かりました。また、先を見据えた展開をしていくこと、そして最悪の状況を想像することが長く存在するために大切だと分かりました。

○経営の難しさについて学ぶことができた。また、特許を巡る戦争のような争いがあることも知ることができた。今後もし自分が経営に携わる職についたら、是非今回の講演を人生に活かそうと思う。最後におっしゃっていたメッセージの通り、高い「道德心」と「職業倫理観」をもって生きたい。

○「マーケティング」という言葉は最近よく聞くことがありますが、実際はよく知らないものでした。今回の講義で、マーケティングという考え方は経営、企業を発展させていく上で、とても大きな、基礎的なことなのかなと感じました。最後の「ノブリス・オブリージュ」という考え方をきいて、自分の今までの行動、言動が気になりました。「自分の1つの行動がたくさんのもの、人、ことに影響を与える可能性がある」ことを改めて感じました。これは十にも一にも与えてしまうととれるので、より一層ふだんの生活を見直し、幅広い視点をもっていきたいと思ひます。

○今回の講演から、経営の大変さや、トップとしての責任を学ぶことができた。チャレンジしなければ成功しない。チャレンジには当然失敗がつきものだが、失敗する覚悟の無いものは成功できないと分かった。だからこれから自分は、どれだけ険しい道であろうと進んで行きたい。傷つく覚悟がなければ、前に進めはしないのだから。

○軸はぶらさず、時代に合わせて新しいものを取り入れながら新しいものを作り出していくことが経営の根本であることを知ることができた。フリーズドライ食品がまだ世間に浸透していない時に、それを作ろうと思った天野社長、それについていった社員の人たちはお互いにすごく信頼していたのだろうし、やはり社長になりうるような人は、新しいものを作り出す、時代を変える力を持っているのだなと思った。



○天野実業という会社名はあまり聞いたことがなかったので、カップヌードルの具やインスタントのみそ汁を作った会社と聞いて驚いた。前回のエフピコとは違い、同業者のライバル会社がたくさん存在する中で、数十年間事業を続けてきたのはすごいと思った。そして、そのような歴史の上で「経営には伝統を守ることと、変わることのどちらも必要」という言葉に説得力がありました。

○業界の中で成功して生き残っていくためには、失敗を恐れずに新しいことにチャレンジしていくことが大切だとわかった。また、特許に関してこのような過激な戦いが繰り返されているということを知って驚いた。「利己と利他の調和」ができて、人間的に成長していけるようになりたいと思ひます。